

周縁的社会集団と近代

—日本と欧米におけるアジア史研究の架橋

(第3回個別セミナー)

日時:2018年1月11日(木) 15時～18時

会場:大阪市立大学経済学部棟 2F 第4会議室

平成29年度日本学術振興会「頭脳循環プログラム」に採択された本学文学研究科(日本史・東洋史・西洋史)企画「周縁的社会集団と近代—日本と欧米におけるアジア史研究の架橋」は、近世から近代の過程におけるアジア諸地域の周縁的社会集団の変容を「排除」と「包摂」の経験に焦点をあて、世界史的な視野で解明することを目的としています。

個別セミナー第3回目の今回は、本プログラムの海外連携研究者のリーダーであるイェール大学のダニエル・ボツマン氏をお招きします。氏は、明治維新期の政治・経済的変革と社会構造変化の関係に注目して研究を重ねてきました。今回の報告では、1968年の「明治維新百年」も想起しつつ、維新150年をめぐる現状を分析し、歴史学研究の役割とその意義について論じていただきます。

さらに、本年2月にイェール大学に派遣が決まっている若手研究者である本学教員の上野雅由樹氏には、オスマン帝国の近代国家化の過程において、西欧列強の圧力のもと、「解放」すべき周縁的社会集団とされたキリスト教徒諸民族に関する氏の研究概要と今後の課題について語ってまいります。

また今回のイベントでは、本事業の日本側担当研究者となる東京外国語大学のジョン・パトリック・ポーター氏にコメントをしていただきます。日本近世～近代移行期における非人集団の社会的実態とその解体過程を研究してきた立場から、主としてボツマン報告に対してコメントしていただきます。

参加は自由です。本事業やアジア史、都市と周縁的社会集団の研究に関心をもつ多くの皆さんの参加をお待ちしています。

① Daniel Botsman (ダニエル・ボツマン) (イェール大学歴史学部・教授)

「明治維新150年をめぐって」

② 上野雅由樹 (大阪市立大学大学院文学研究科・准教授)

「宗教を交渉する：オスマン人キリスト教徒と近代」

ゲストスピーカー(コメント)

John Patrick Porter (ジョン・パトリック・ポーター)

(東京外国語大学大学院国際日本学研究院・講師)

連絡・問い合わせ先

頭脳循環プログラム「周縁的社会集団と近代」事務局

佐賀 朝 (UCRC 所長・文学研究科教授)

E-mail : CYI03126@nifty.ne.jp